

CAMK コレクション展—新規収蔵作品パート2

2019年7月10日（水）—8月25日（日）

出品作家・作品解説

熊本市現代美術館 井手宣通記念ギャラリー

●新規収蔵作品より

佐々木耕成（ささき こうせい 1928-2018）熊本県出身

佐々木耕成は、1960年代の東京で前衛美術グループ〈ジャックの会〉の中心メンバーとして活動。前衛美術を社会に根付かせるため、絵画から過激な路上パフォーマンスまで様々な活動を行った。渡米後、消息不明とされていたが、1990年代に群馬を拠点に巨大な絵画作品を多数制作していたことが判明。「佐々木耕成展 全肯定/OK. PERFECT. YES.」（2010年、3331 アーツ千代田）、「変革の煽動者 佐々木耕成アーカイブ」（2018年、熊本県立美術館）などの調査でその全貌が明らかになった。

《作品#9》…帰国後、佐々木は群馬では絵看板の制作を手掛けていた。その延長で画材も身近なペンキ、支持体は布を貼ったベニヤ板を用い、そこから抽象的な大画面の絵画を描き続けた。それらの作品にはいずれも《作品#》というタイトルが付けられた。

宮本明（みやもと あきら 1935-2014）旧満州出身、戦後熊本に引揚げる。

《記憶を奪った海》…1970年代以降、有明海の干潟を描き続けた。少年期に引き揚げた旧満州への想いなどを重ね、雲天の凧いだ海が船や漁具とともに描かれる。

天野喜孝（あまの よしたか 1952-）

アニメーション制作会社タツノコプロダクションで「タイムボカン」のキャラクターデザイン、独立後、「ファイナルファンタジー」、「ヴァンパイアハンターD」、「グイン・サーガ」のデザインや挿画を手掛ける。近年は、欧米やアジア各国で数多くの展覧会を開催。

《月と太陽》…アクリルパネルの両面に「月」「太陽」をイメージした像が表裏一体に描かれる。コレクターの依頼により制作された肉筆、オリジナルの作品。

●収蔵作品より

井手宣通（いで のぶみち 1912-1993）熊本県出身

《祇園祭》…全国の様々な祭りを取材し描いた「祭り」シリーズは井手宣通の代表作。7月に行われる「祇園祭」では、京都の町中に豪華絢爛な山鉦が立ち並ぶ。祭りの熱気やお囃子の音までが画面から溢れ出てくるようだ。

《涼夜》…熊本と負けず劣らず暑いと言われる京都の、夏の風物詩が、「床（ゆか）」と呼ばれる納涼床である。鴨川沿いに設えられた座敷で多くの人々が涼を取る。この時期ならではの光景である。

坂田憲雄（さかた のりお 1914-2003）熊本県出身

坂田憲雄は、日展などを中心に活躍し、井手宣通らと共に後進の指導にも尽力した。今回出品するスケッチシリーズは1984年頃に欧州を訪れた際に残したもの。そこで見た町並みや風景、そして光が、阿蘇や天草などの身近な風景を、鮮烈な色彩でドラマティックに描く、後年の油彩画の大作につながっていく。